

**OKC****OSAKA KOEI CO.,LTD. TOKYO OFFICE**KAGURAZAKA FIRST BLDG 2F, 27 NAKAZATO-CHO, SHINJUKU-KU,  
TOKYO 151-0051, JAPAN  
TEL 03-5225-4080 FAX 03-5225-4081

建設株式会社

代表取締役 様

お世話になります。

西谷様邸 外壁ラーチ羽目板の現況につきまして弊社の見解を以下に記させていただきます。

本物件に使用していただいております「ラーチ羽目板」、樹種は欧州カラ松になります。  
元来ヨーロッパにおいては、外部用木材として適当な樹種は無く、パイン材に CCA などの薬品処理を施して使用しておりました。しかし人体への悪影響などから使用が禁じられるようになり、それに変わる材としてこの欧州カラ松が多く使われるようになりました。現在でもドイツ、オーストリアといった国においては住宅はもちろん、公共施設の外装用にも多用されております。日本との気候条件などの違いを考慮しましても、欧州カラ松の特性として外部に不適当な木材ではないと考えます。

無垢材は吸放湿性が高く、多湿期と乾燥期では寸法上の伸縮が生じます。割れている板を数枚確認いたしましたが、これは多湿期による膨張で圧縮力が働いたことによるもの、その反対に板と板の隙間は乾燥期の収縮により生じたものです。

保護を目的とする塗装を竣工時に施工されて以来、その後のメンテナンスはなされてないと伺いました。拝見しましたところ既に竣工時の塗装の効力は失われているようで、雨天時には多くの水分を吸収し、更には水平方向に貼られているため、水はけが困難であったと考えられます。例えば夏季において雨で水分を多く含んだ後に強い直射日光に照らされるといった状況はかなり過酷であったと想像します。これらの付加された条件が通常と比して異なった点だと思われれます。

対応としまして、竣工より約 20 ヶ月が過ぎていきますのでその伸縮率は低くなりますが、現況より更に状況を悪化させるのを防ぐ為に、再度保護塗料の塗布によるメンテナンスをお勧めします。また板材の反りを防ぐ為に化粧釘などで板材の表から留めていただくといった方法が考えられますが、これは意匠に関係するところでもありますので、ご参考としまして提案させていただきます。

以上。

株式会社大阪工営 東京事務所

東京事務所

課長

株式会社 大阪工営

東京事務所 〒162 東京都新宿区中里町27番地 TEL (03) 5225-4080(代)  
-0804 神楽坂ファーストビル2F FAX (03) 5225-4081  
e-mail: info@okc1.com

http://www.okc1.com

本社 〒530-0041 大阪市北区天神橋2-4-17 TEL (06) 6353-5784(代)